

情報と表現

プロフェッショナル 仕事の流儀

まず動け、未来はその先にある

プログラマー／アーティスト 真鍋大度

放送日：2014年5月12日 放送時間：48分

対象校種 中学校 高校

対象教科 技術 情報 総合



この番組の良さ



● テクノロジーを生かした職業

プロフェッショナルでは、これまでに様々な職業の第一人者が登場しています。中でも、特に本番組のようなテクノロジーやエンターテインメントを扱う職業は、生徒にとって興味深い分野です。教員が紹介する機会の少ない、テクノロジーを用いた新たな職業の内容や働き方の一端を垣間見ることができます。

● 自分のやりたいこととは何か

世界中のアーティストやイベントの演出を引き受ける真鍋さんですが、大手電機メーカーに就職するも半年で辞めてしまうなど、20代のころは自分のやりたいことがはっきりしなかったと言います。自分が試してみたい新たなことを動画共有サイトで発信したところ、大きな反響を得たことが、今の職業を始めるきっかけになったそうです。自分にとってどんな価値観が重要で、どんなことに打ち込むのか、それを見つけていく過程が大事なのだと実感できます。

番組活用のポイント

● プログラミングの可能性

小・中・高の全ての学校段階で、プログラミング教育が必修の内容となっています。プログラミングに関連した職業といっても、生徒はゲームやアプリのプログラマーくらいしか連想できないかもしれません。本番組はプログラミングを利用した舞台やコンサートの演出が取り上げられています。今後の社会では、あらゆる業種でプログラミングをはじめとしたテクノロジーが活用されます。生徒が、今後の社会における職業の変化について実感することができるでしょう。

● コンピュータと外部機器との連携

番組では、プログラムといっても画面内で完結するものではなく、プロジェクターやドローンなどと連携した新たな表現を行うためにプログラムが利用されています。その際、コンピュータ単体だけでなく、カメラやセンサなどの機器を組み合わせ利用しています。高等学校「情報」のコンピュータとプログラミング、情報社会の問題解決、中学校「技術・家庭科」の技術分野「D 情報の技術」でも教材として活用することができるでしょう。

● 表現の多様性

生徒の思考力・判断力・表現力を生かしてアウトプットする学習活動がより重要となってきています。文章や図、数式、音楽など、方法はたくさんありますが、コンピュータを使った表現活動はこれまでの学校教育ではほとんどされてきませんでした。プログラミングは、本番組でも取り上げられているように新たな表現のツールになります。GIGAスクール構想によって、児童生徒は1人1台の端末が利用できる環境となりました。これまでの方法に加え、コンピュータやプログラムを活用し、児童生徒が多様な手段を自ら選択して豊かな表現力を発揮する授業の実現が望まれます。



執筆者

NPO法人みんなのコード学校教育支援部

指導講師

永野 直